

上京

史蹟と文化

2006 VOL. **30**



美を創る



鍛冶師

成瀬

瀬

日出夫

京都市上京区千本通芦山寺上ル

春、筍の季節になると成瀬さんは忙しくなる。京都では柔かい筍を供給するために、地中にある臼子を掘り出すという難しい作業を強いられる。それに対応する独特の農具が「ホリ」である。トグワを細くして棒状に長く伸ばした鍬なのだ。筍は同じように竹林で生育するものではなく、それぞれの地味や竹の種類によって微妙に異ってくる。それだけに、ホリは二挺二挺が同じではない。筍農家一軒ごとに先祖代々受けつがれてきたホリの癖を見抜く必要がある。新しく鍛えられたものはもとより、鍛え直されたホリには二つ二つ地域と農家の名が記されている。筍を掘り終わったホリは成瀬さんの



「ホリ」左より 山城型・大枝型

工場に運びこまれ、磨耗した刃先を切り落として再度鋼をつけ直す先掛せんかけという加工仕上げが繰り返される。今や本当にホリを扱えるのは日本広しといえども成瀬さんだけだといわれる。

その技術が評価されて、平成九年には京都府の京の名工表彰、さらに十五年に厚生労働大臣の卓越技能章（現代の名工）を受けられ、明治四年創業以来、四代にわたる鍛冶師としての栄誉が讃えられた。いうまでもなく野鍛冶のかじの第一人者である。鉄を火で加工する鍛冶は古代からの金打かねうちから生じた職種で、火で焼いた鉄を二挺の鎚で打ち鍛える刀鍛冶や庖丁鍛冶などがあるが、野鍛冶は農鍛冶ともいわれるように農機具を主体とする鍛冶である。

その昔、村落には必ず一軒の鍛冶屋があって、小学唱歌の「村の鍛冶屋」に歌われたような風景はあたり前であった。しかし大量生

産の近代産業となった今、鍛冶屋は廃れゆき、その技術と伝統を受けつがれる成瀬さんの卓越した技は貴重な存在といえよう。

昔ながらの作業場では、重い鎚を軽々と操り、火花を散らしながら鍛冶に打ち込まれる崇高な姿は、上京区内にもこのような農



ショーウィンドウのミニチュアケース

作業にかかわる伝統産業が生きつつけている誇りとしたものである。

お店を出て周囲を見渡すと、ここは千本頭、かつては農村と市街地の接点で、農機具店の立地条件にふさわしいところと想いあたった。

室町通

「室町」といえば京都の通り名の中でも、商圈として全国版といえるような地名ではないでしょうか。それは京都の地

場産業である西陣織や友禅染による製品を全国に販売する産地問屋の拠点であったのです。しかし、その中核は中京

であり、二条通から南へ、下京に至るあたりでした。足利將軍の「室町幕府」が

歴史的用語として定着するにつれて、室町の名は日本全国に広がって行つたのです。

平安京の室町小路は、東洞院大路の二町西、西洞院大路との中間に位置し、幅四丈、一二メートルほどの小路でした。一条大路から九条大路まで、道幅は狭くなつても、ほとんど同じところに今も存在しています。



上京の史蹟シリーズ
室町通

大路小路

(その12)



現在の室町通は北山橋の西詰に

始まり、昭和初年の区画整理による格子状の市街地を経て今宮通に至ります。その先はゆるく蛇行し

た街道状の道がつづき、鞍馬口通では八〇メートルほど東へずれ、

本来の室町通につながります。

ここから南は東西に振

むろまち 室町頭

豊臣秀吉の市街地改造によつて、それまで安居院通といわれていた寺之内通の北側に寺院が集められ、市街地の北端となります。そのあたりを「頭」と

いい、今も室町頭町の名が残っています。その室町小学校の正門内には「是より洛中馬の口取のもの乗べからず」と彫られた四本の石標が立っています。今でいえば道路標識の役目を果たしており、公儀によつて建てられたと推測されます。ほかにも堀川頭にあつたと

思われるものが水天満宮

の境内や仁和小学校に残り、近年、北村美術館にも鎌倉から里帰りしてきました。また南の方では梅逕中学校にも大宮通にあつ

たと思われるものが移設されています。元禄八年(一六九五)頃に三十カ所

ほど設置されたようです。洛外から洛中へ行商や物資の運搬をするために荷馬車で出入りする者たちに対する標示であつたのです。人家疎らな洛外では馬の背に乗ってきた口取の者が、人家の密集した洛中では馬の背から降りて手綱を



無学寺



室町小学校の「是より洛中」標

取り危険のないように通行せよという指示なのです。おそらく、室町・堀川・千本などが寺之内と交叉するあたりに北へ向けて立っていたのでしょう。

室町通は寺院の少ない通りです。鞍馬口下るの真宗大谷派の大泉寺、寺之内上るの無学寺だけです。あとはずっと南の東本願寺までありません。無学寺は鎌倉時代の弘安二年（二七九）に来日した中国僧無学祖元が、この地に開創したといい、寺説では本尊地藏菩薩を夢の中に感じたところから夢覚寺とも称しました。その後荒廃

しますが、江戸時代に曹洞宗を以って再興されて今に至っています。

むろまち 花の御所

今出川室町の東北角に立つ「従是東北 足利將軍室町第址」が示すように、ここから東北方一帯は足利將軍の邸宅である室町第が構えられていました。三代將軍義満は三条坊門（今の御池通）にあった幕府を内裏に近い公家屋敷の跡地へ移し、永徳元年（一三八二）に完成させました。ここは邸宅であるとともに武家政庁としての性格を持ち、屋敷内には多くの花が植えられたことから「花の御所」または「花宮」といわれ、周辺に

は有力諸大名や武家、さらに公家の邸が集住し、政治・文化の一大中心地となりました。

花の御所跡は記録の上ではほぼ位置を確認していますが、その遺構は断片的に発見されているだけで、今もその全容を知ること実は実現していません。しかし、こうした中でも最近になって同志社大学の校地の発掘調査により、烏丸上立売下るの寒梅館の工事などから少しずつ遺構が知られるようになってきました。室町通今出川上る一筋目東入の清法院辻子で、花の御所の庭の景石と思われる大きな石が発見されています。京都保護観察所の北向かいのマンションの駐車場に保存されていて外から見えます



花の御所の景石

す。また、このあたりには裏築地町・築山北半町など、花の御所ゆかりの町名も残ります。

福長神社と 富岡鉄斎旧宅

武者小路下るの北側に福長神社があります。福井神と綱長井神に稲荷神を合祀しており、福長稲荷ともいいました。福井神と綱長井神は平安宮の神祇官西院に祀られていた泉や井戸の神とされます。元は大宮と猪熊の間に祀られていたのが、聚楽第の造営によってそ



福長神社

今は散逸している万巻の蔵書が収められていました。

の域内に入り、聚楽第廃絶のあと今の地に移ったと伝えられています。今も水の神として信仰されています。

一条通下る東側に富岡鉄斎の旧宅が残っています。現在は京都府議会議員の宿舍となっていますが、往時の姿をよく伝えています。瓦葺屋根に竹組の門扉をつけた表入口の中には二階建の主屋と三階建の洋館が見えます。洋館は「賜風書楼」と名づけられた書庫で、



富岡鉄斎は天保二年（一八三二）に三条衣棚の法衣商の家に生をうけ、少年時代から学問に励むとともに、大角南耕に絵の手ほどきを受け、大田垣蓮月尼の人格の薫陶をうけました。明治になってからは、石上神宮や大鳥神社の神職となり、自らの画幅を頒布して荒れていた神社の復興に尽力したとい

います。明治十五年、鉄斎四十七歳の時、京都に戻り、この室町一条下るの地に居宅を構え、大正十三年十二月、八十九歳で亡くなるまでの四十二年間にわたって学問と画作に耽った史蹟です。

富岡鉄斎は近代日本画の異才として帝国美術院会員となり、その一作は重要文化財にも指定されて



富岡鉄斎旧邸

いますが、自らは画作は余技といながらも、自筆の賛文と絵を併せて理解しなければ本当の鉄斎画を知ることとはできないとされています。

昭和五十六年十一月、上京区文

化振興会の発起により「富岡鉄斎邸宅」の石標が建立されて、その功績を讃えることができました。この碑文は鉄斎の孫の富岡益太郎氏の筆になりますが、その筆跡は鉄斎が生前に書いた大原野神社や晴明神社の社号標の文字に似せられています。なお、この石標の建設費は鉄斎の書画を多数所蔵する宝塚市の清荒神清澄寺の篤志と伝えられています。

勘解由小路と武衛陣

下立売通を挟んで北に「勘解由小路町」、南に「武衛陣町」という意味あり気な難読町名があります。平安時代には今の下立売通を勘解由小路と称しました。「かげゆこうじ」または「かでのこうじ」と読みます。勘解由とは平安時代に令外の官として新しく設けられた勘解由使の役所があったことによるのです。勘解由使とは国



勘解由小路町 ●
旧二条城跡 ●

今出川通

無忍寺 ●

muromachi dori

丸太町通

● 武衛陣跡
榎木町通

下立売通

出水通

下長者町通

上長者町通

● 富岡鉄斎旧宅
中立売通

一条通

● 福長神社

武者小路通

● 室町第址
● 室町幕府

● 花の御所景石

上立売通

寺之内通

● 室町校

上御霊前通

鞍馬口通

司の交替にあたって交わされる事務引継書を解由状といい、それに不正が無いことを確認する役人でした。

武衛陣町は南北朝時代の康永年中（一三四二～一三四五）に、足利幕府の管領、斯波活部少輔義将が將軍尊氏より「武衛」の称号を与えられ、その邸宅として武衛陣を構えたことによります。武衛とは兵衛府の唐名で、斯波氏は兵衛督や兵衛佐に任ぜられ、その通称として用いられました。その武衛陣は応仁の乱後は荒廃し、後に十三代將軍の足利義輝の邸宅となり、「足利武衛陣」と称されましたが、松永久秀に襲われて焼失します。さらに十五代將軍足利義昭のために、織田信長が二条城（二

条御所）を築きます。この石垣の

一部が地下鉄烏丸線の工事中に発見されました。それらは石仏や五輪塔が転用されたもので、いかにも織田信長らしい荒っぽい工事が目に見えるようです。この石垣の一部は京都御苑の榎木町口の内側や、洛西の竹林公園に保存されています。（本誌二二号埋文参照）

また、この南にある大門町も武衛陣の大門による町名です。「此付近 斯波氏武衛陣 足利義輝邸遺址」の石標は武衛陣町の東側、「旧二条城跡」の石標は下立売室町西南角に立っています。



医系大受験専門予備校

学校法人 **近畿予備校**

医学部・歯学部・薬学部・獣医学部

医進アカデミーコース 対象：既卒生・再受験生
医進高校生コース 現役合格 対象：高1・2・3生

0120-399-475

〒602 京都市上京区烏丸通今出川下る梅屋町475
TEL.075-441-6681(直) 地下鉄今出川駅⑥番出口南スグ
URL: <http://www.simei-gakuen.ac.jp>

お・わ・び

二九号五ページ三段から四段目にかけて、次の文は誤りでしたので削除します。
百人一首に「法成寺入道前関白太政大臣」として取り上げられている藤原道長その人の遺跡といえます。

上京の埋蔵文化財

— 古代出雲郷の発掘調査 —

今回、相国寺境内北東に位置する

承天閣美術館が増築されること

になり（図1）、財団法人京都市

埋蔵文化財研究所が工事に先立っ

て2004年に発掘調査を実施し

たところ、縄文時代の土器から明

治時代初頭に廃絶した相国寺塔頭

劫外軒跡までの各時代の様々な遺

構・遺物を検出しました。上層で

は、桃山時代に遡る相国寺塔頭劫

外軒の建物基壇跡（図2）や、北

山橋付近の加茂川から御所に水を

引くために近世初頭に穿たれた禁

裏御用水（図3）などの遺構を検

出しました。また下層からは、最

も注目される白鳳時代の竪穴建物

20基と、奈良時代初頭の掘立柱

建物1棟などを検出しました（図

4）。

「古代出雲郷」

調査地近辺は奈良時代の山城国

愛宕郡出雲郷の所在地とされてお

り、今日でも出雲路橋や出雲路を

冠した町名が残っています。この

山城国愛宕郡出雲郷は、律令国家

の存立基盤である税金台帳・戸籍

簿ともいべき神亀三年（726）

「山城国愛宕郡出雲郷雲上里・雲

下里計帳」が『正倉院紙裏文書』

として偶然にも今日まで残存して

ます。そこには出雲国から移住し

てきた出雲臣を名乗る人々を中心

に300名以上の人々の名前が記

載されているので、古代史ではこ

の「計帳」を手掛かりにして様々

な研究が進められてきました。ま

た古代の人々の生活を解明する史

料として教科書にも載ったことも
あります。また、近辺の調査でも
中世の遺物に混じって7世紀から
8世紀の遺物が散発的に出土して
いましたが、遺構に伴う遺物は検
出できていませんでした。

「竪穴建物群と掘立柱建物」

ところが今回の調査では20基
の竪穴建物と1棟の掘立柱建物を
検出することができました。今回
検出した竪穴建物は一辺約4メー

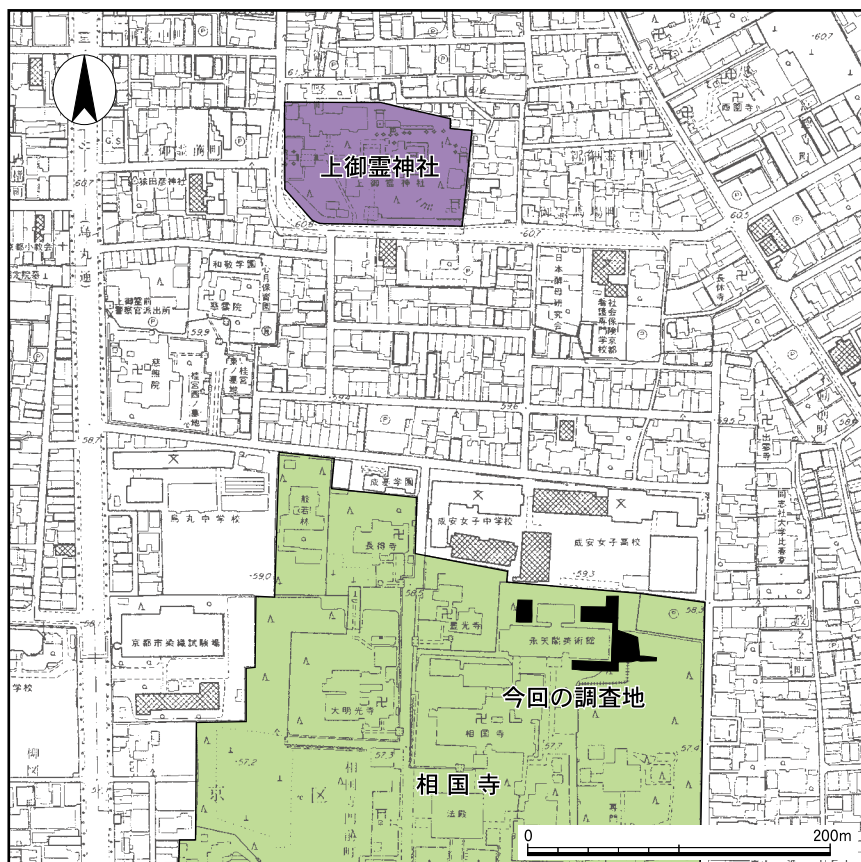


図1 調査位置図



図3 禁裏御用水跡



図2 劫外軒基壇跡

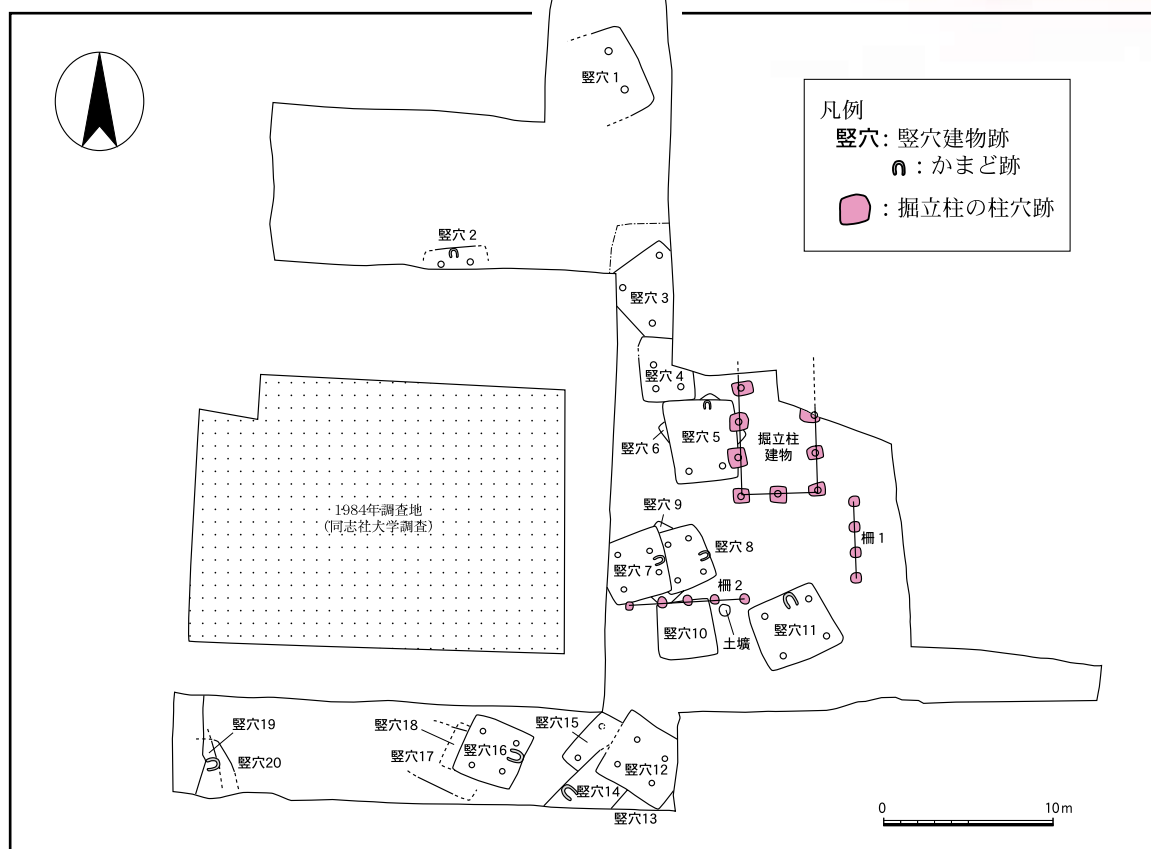


図4 下層遺構実測図

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本 社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライトホール(堀川紫明)	京都市北区紫明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
公益社中央ブライトホール(五条大和大路)	京都市東山区五条通大和大路 ☎ 075(551)5555
公益社南ブライトホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側 ☎ 075(662)0042
公益社西ブライトホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
公益社宇治ブライトホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前) ☎ 0774(20)0042
公益社滋賀ブライトホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目 ☎ 075(523)0042

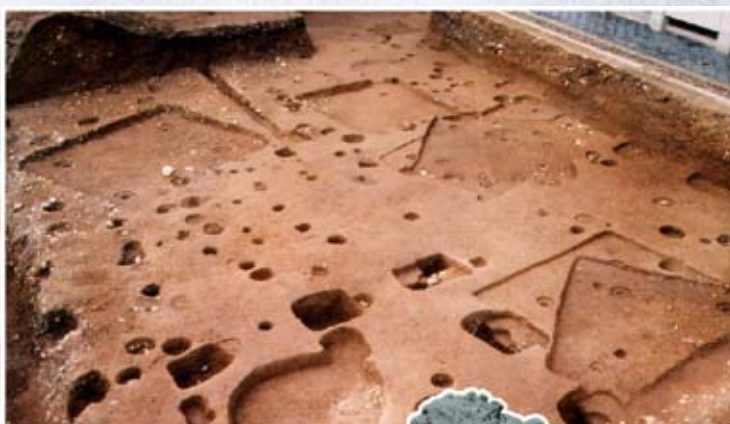


図5 竪穴建物群と掘立柱建物

トル四方・深さ約30センチ前後の小規模な竪穴で、一辺のほぼ中央に小さな馬蹄形の竈^{かまど}を作り付けていました。竈の位置や竪穴建物の方向はばらばらで規格性はなく、同じ場所に4回建て替えられた竪穴建物もあることがわかりました(図5)。竪穴建物の床からは白鳳時代の須恵器の坏・皿、土



図6 竪穴建物出土鉄滓

師器の坏・皿などが出土したので竪穴建物の存続時代が7世紀の半ばから後半にかけてであることが確定できました。またこれらの土器類の他に鉄を溶かした後に残る多量の鉄滓^{てつさい}(図6)や轡^{ふいご}の羽口^{はぐち}・^{つぼ}、^{つぼ}・砥石などの製鉄道具が竪穴建物内や竪穴建物の横に穿たれた土壌^{どよう}から出土しており、何らかの

鉄製品を製造していた集落であることが分かります。また竪穴建物の床に一抱えほどの石を据えたものがあり、その床土に磁石を当てると多くの鉄の剥片^{はくへん}が吸着したので、化学分析して調べてみると竪穴建物内で鉄を鍛造^{たんぞう}していたことも分かりました。しかしこの竪穴建物群は奈良時代に入る前に忽然と消えてなくなり埋まってしまいます。そして竪穴建物があった上層に東西南北に方位をそろえた大型の掘立柱建物や柵列が建てられました。したがって、この柵列による区画を伴う大型の掘立柱建物こそが「計帳」に記載された時代とほぼ重なります。では先の竪穴建物群はどうでしょうか。

この点については今回の調査だけでは確定できませんが、しかし手掛かりはあります。それは竪穴建物の竈に丸瓦が据え付けてあったことです(図7)。竪穴建物や掘立柱建物には瓦を葺きません。古代において瓦を葺けるのは礎石建



菓 匠

玉寿軒

本家

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

新・古茶道美術品

清昌堂

やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602- TEL (075) 431-1366
0061 FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162- TEL (03) 5261-4566
0856 FAX (03) 3235-5677

ちの寺院か役所だけです。

『出雲寺跡の瓦』

そこで目を転じて調査地から北西300メートルに位置する上御霊神社に注目すると、戦前に境内から白鳳時代の藤原宮・本薬師寺



図7 竪穴建物竈と丸瓦

系の軒瓦が発見されています。神社境内は出雲氏の氏寺であった可能性が高いと判断され、出雲寺跡と呼称される遺跡に指定されています。出雲寺の存在は文献では少なくとも鎌倉時代まで迎えますが、上御霊神社は『延喜式』にある京七寺の一つである「御霊寺」が神仏習合を経て神社となったもので、「上出雲御霊堂」とも呼ばれていました。『日本略記』康保三年（966）七月七日条に「御霊堂・上出雲寺」とあり、平安時代に上出雲寺が御霊寺・上出雲御霊堂と呼ばれ、最終的に上御霊神社に変遷して現代に至ったことが判明します。

この出雲寺跡から白鳳時代の瓦が出土していることから、なぜ竪穴建物に瓦があったのかという疑問も氷解します。つまり竪穴建物の住人は何らかの形で出雲寺造営に関係していたということです。

北山地域では7世紀代には北白川廃寺・北野廃寺・広隆寺・八坂

寺などの氏寺が次々と建立されました。これは推測でしかありませんが、出雲地方が砂鉄製鉄で有名なように京都に移住した彼らも製鉄を生業にして出雲寺造営の経済基盤を形成していたのかもしれない。

—おわり—

今回の発掘調査では、その他さまざまな時代の遺構・遺物を検出しており、現在鋭意報告書を作成中です。上京地域には、まだまだたくさん重要な遺跡が土中に温存されており、今後の上京区での発掘調査に注目していただきたく思います。また、この報告書には上御霊神社宮司小栗栖元徳氏の御好意により、今日まで紹介されたことのない神社所蔵の貴重な白鳳時代の瓦を資料として掲載する予定です。最後に発掘の機会を与えられた相国寺に感謝します。

（財）京都市埋蔵文化財研究所

東 洋 一

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

『ハゲタカの罫』一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408(代)

E-mail:info@wako-print.co.jp



—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。

さわやかな水のせせらぎが聞こえ、

やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。

7つの多彩なレストラン&バーで、

ブライتن流のきめ細やかなサービスをお届けします。

〈客室〉183室
〈レストラン&バー〉

- 京懐石「壺（はたる）」●鉄板焼「焼（ひもろぎ）」
- フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」●テラスレストラン「フェリエ」
- ラウンジ「クー・オ・ミディ」●中国料理「花蘭（かかん）」
- メインバー「ムーンシャイナー」

京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360

ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>



上京

薪能

第四十一回「上京薪能」は九月二十一日に白峯神宮にて開催されました。第一部では、区民による舞囃子・仕舞・琴演奏の発表があり、第二部はかがり火のもとおごそかに執り行われた火入式により始まりました。第二部の主な演目としていちひめ雅楽会の舞楽「狛杵」

宮城社・麻ノ会の琴演奏「秋の曲」
金剛流・仕舞「駒の段」
観世流・舞囃子「屋島」
大蔵流・狂言「長光」
金剛流・能「羽衣」が
演じられました。
今年は天候にも恵まれて、
豊かな伝統と文化を堪能した
夕べとなりました。



京のおばんざい教室



九月三十日に「畑かく」にて「京のおばんざい教室」が開かれました。「畑かく」社長・新造一夫氏から実演を交えての講義があり、熱心な質問が多数出ました。その後、出来上がったおだしを味わいながら昼食のお弁当を美味しくいただいて、なごやかなうちに散会となりました。



十月二十九日に
新町小学校にて開催されました。
雨天のため、まつりの内容に多少の変更はあったものの、
ちびっこからお年寄りまでの多くの区民が参加され、
上京中学校吹奏楽部のオープニングファンファーレ、

上京区民
2005

ふ
ま
あ
9、



新町小学校音楽部の演奏やバトン部の
ポンポン演技が披露され、
アイドルユニット「MAYBE MAX」が登場すると
会場は大いに盛り上がり、おいしい食べ物や
楽しいゲームなどに興じていました。

秋の上京茶会



恒例の「上京茶会」は十一月六日、
前回に引き続き
大徳寺塔頭「瑞峯院」を会場に
開催されました。
裏千家の懸釜によるお茶席は
四百人を超える
参加者を迎えました。
寺院の庭園も時雨により
また一段と美しく、
深まりゆく秋の気配の中
静かにお茶を
いただくことができました。



「ピアノとともに五十年」
「ピアノ演奏とお話」
様々な文化に親しんでいたく機会として開催している「上京区民ふれあい文化大学」が十一月二十二日に、京都ブライトンホテルで開催されました。

今回は京都市立芸術大学名誉教授の田隅靖子先生をお招きし、ピアノ演奏に加えて、曲目解説や先生の世界各地での音楽活動のお話をいただきました。

参加者は華やかな演奏と貴重なお話に熱心に聞き入っていました。

文化大学 上京区民ふれあい



「講演のつどい」

十二月の人権月間に伴い十二月八日に、同志社大学寒梅館ハーディーホールにて人権講演会が開催されました。

今回は講師に落語家の桂文福さんをお招きし、「真の笑いは平等な心から」を演題に、人権について落語や腹話術を交えて楽しく話していただきました。



参加者からは絶えず笑い声が聞こえ、難しく捉えがちな人権問題を親しみやすく考えていただくことができました。



ガーデニング教室

十一月十八日にホテルルビノ京都堀川に於いて「ガーデニング教室」が開かれました。講師の「花工房」社長・臼居季生氏の指導により楽しく作業が進みました。豊富な花材を使って徐々に作品が形を成し、豪華なクリスマス用寄せ植えが出来上がり、季節の訪れを感じることができました。



上京区民ふれあい史蹟ウォーキング

北野天満宮太閤井戸をスタートし、千本釈迦堂や首途八幡宮を経由して晴明神社までの約三キロを歩きました。マップを片手に様々な説話が残る社寺や町家を散策しました。

今年で第十五回目となる「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が十二月二十七日に開催されました。今回は上京区散策マップ「京都上京を歩く」の「説話のあとを歩く」コースに沿って、



宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

くつろぎ ¥4,200(税サ込)

ホテル ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



季節料理
祇園
い
田

〒605-0088 京都市東山区花見小路新橋東入
TEL.075-525-1515

元祖
ぼたん鍋と京料理
煙かき
京・上御霊前烏丸西
〇七五・四四一・〇六〇(代)

花にまつわるエピソード...

季節も添えて演出します。



心のこもった贈り物 Flower Gift

花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc

フラワーアレンジメント教室 開催中!!!



本 店 京都市上京区烏丸通今出川下ル
TEL.075-414-8700(代) FAX.075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700
URL:<http://www.hanakobo.co.jp>

長 岡 店 長岡京市1丁目セブン通り
TEL&FAX 075-957-0187
大 津 店 大津市萱野浦 ロイヤルオークホテル内
TEL&FAX 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。



創立以来七十余年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気包まれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮/バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



創業文暦五年 宮内庁京都御所御用

京菓子司 俵屋吉富

本 店 京都・室町上立売 電 話 (432) 2 2 1 1 代
烏丸店 京都・烏丸上立売 電 話 (432) 3 1 0 1 代

「上京 史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

いつまでも健康に——。
サン・クロレラ

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP※に準じた製造工場で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に込められる理由です。

※医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。

サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。